

三田空襲ワークシート 高等学校

先生用 解答例と指導のポイント（高等学校）

ねらい：史料の性格を踏まえて複数の記録を比較し（史料批判）、結論に至る推論の過程を説明できる。戦争体験の継承の方法を、長所と限界を踏まえて論じる。

1. 手記：当事者の見聞にもとづく記録／午前11時20分・グラマン2機／年月がたってから書かれ、記憶や当時の情報（艦載機という認識）に左右される。区史・記念誌：複数の証言を集約／午前9時半ごろ・艦載機・1波4機2波8機／機種は推定。米軍報告書：攻撃した側の公式記録／3戦隊が伊丹・西宮方面へ出撃し周辺に機銃掃射／「三田」の地名なし、時刻の基準に注意。新聞：軍の発表にもとづく／午前9時ごろから1時間、硫黄島からのP-51と発表／軍の発表で、統制や不確かさがある。
2. 例：艦載機の出撃記録がない（米海軍・英機動部隊・沖縄の陸軍部隊の可能性を消去）→硫黄島のP-51の出撃（第506戦闘機連隊）が7月19日にある→報告書の行動（臨機目標への機銃掃射）と地名（こはま＝旧小浜村）が地元に近い→当時の新聞の発表（P-51、午前9時から1時間）と一致→3戦隊のいずれか、第458戦隊が有力。
3. 例：マリアナ時間（日本時間の1時間遅れ）で記録した可能性。弱点：確証となる一次史料が見つかっていない、「推定」にとどまる。
4. 例：片方の記録だけでは見えない全体像や、当時の意思決定・混乱（航法ミスで目標を見失い、各自の判断で射撃）が見える。被害の側の記録は、人の生活の重さを伝える。
5. 例：憎しみは身近な人を失った経験から生まれる。一方、中嶋さんの言葉は、悲しみを経験したうえで「次の世代に同じ感情を持たせたくない」という願いから生まれている。
6. 評価：具体例（劇・歌・漫画・手記・証言）を挙げ、長所（共感・広がり）と限界（脚色・事実との距離）の両面に触れているか。
7. 発展：自治体史、学校の沿革史、新聞、聞き取りなど。

配慮：犠牲になった子どもたちの名前は載せていません。授業の中でも扱わないでください。劇の出演者（高校生）の実名は使いません。